

アーティスト：

Aymeric DeMeautis (1986年オーストラリア生まれ)

Aymeric DeMeautis は、多分野に渡る学術的なアプローチで表現活動を行うアーティストであり、現在はフランスのパリに拠点を置いています。デジタルアートを媒体に、形・光・空間の変幻自在性を探求する DeMeautis は、物体をループ状に変容するようモデリングすることで、モノの質料と外観から生まれる芸術性を追及しています。

Aymeric DeMeautis は、自身の芸術活動が発展していくステージを重要視しています。工業的なイメージ、現代のテクノロジー文化、形而上学的な考察を重ね合わせて展開されるダイナミックなデジタルオブジェクトは、彼自身が人として、さらにはアーティストとして変容していく様を表現しています。つまり自身の枠を打ち破り、変化し続ける媒体と題材を用いて実験し続けることをアーティスト自身に促しているといえるでしょう。

Aymeric DeMeautis は 2021 年にアーティストとしての活動を開始し、現在はオーストラリア、北米、ヨーロッパ、アジアのプライベートコレクションで国際的に活躍しています。また、フリーランスのアートディレクターおよび 3D アーティストの側面も併せ持っています。モーションデザイン、3D アニメ、および CGI を専門とした情熱と細部にこだわるクリエイターとして、デジタルアーティストの創作プロセスを反映した彼のアート作品は、現代美術と CG アートの関係について活発な議論を喚起しています。

シリーズ

turning energy into

「turning energy into」で、Aymeric DeMeautis は無限にループする 3 つのデジタルアート作品を発表しています。創造性とインスピレーションの分野における形而上学的な旅を三幕構成の演劇のように表現したオブジェクトは、私たちが別世界へと連れて行ってくれます。このシリーズは、ダイナミックなハイブリッドマシンをメタファーとして用いて、アーティストの創作活動の根底にある、多大な時間を要する生成的な試みに疑問を投げかけています。

Aymeric DeMeautis は、「Turning energy into inspiration」というキャッチコピーに着想を得て、この一文の 3 つの要素を物理の公式のように分解します。このシリーズのアート作品はそれぞれ、キャッチコピーであるエネルギー、トランスフォーメーション、インスピレーションを表現しています。「Life of Zed」、「The Conversion of x, y, and z」、「The Birth of III」は、有機物と無機物が共存し、絶え間なく発展してゆくテクノロジーオブジェクトとして、抽象的に表現されています。

Aymeric DeMeautis は、自動車部品、コンピュータハードウェア、自然界の要素を混沌とした形で配置し、絶えず変化する複雑なデジタル彫刻を制作します。現代美術の彫刻作品、デジタルアー

ト、人工知能から影響を受けた彼の作品は、異質なイメージの調和を表現しています。安藤忠雄氏によるミニマリズム建築からインスピレーションを得てブルータリズム環境に設置された本シリーズの背景は、カタチと光の知覚を探求にあります。

エネルギーが自動化され、デジタルアートそのものの考察へと誘う神秘的なマシンは、同時に創造的であり、コンシュームなものです。Aymeric DeMeutis の彫刻作品は、機械的な空想や原動力と同じメタアートであり、アーティストのインスピレーションと創造のプロセスを具現化しました。無からの創出は、あらゆる環境で起こり得るトランスフォーメーションのプロセスなのです。

アート作品

001: Life of Zed

「Life of Zed」のテーマは、エネルギーです。この作品は、自動車の部品、コンピュータハードウェア、自然界の要素が共存する、混沌としながらもプログラム化された構造物を表現しています。表面上は特徴が無くともダイナミックなデジタルオブジェクトである「Life of Zed」は、抽象的なタイムパラドックスです。

エネルギーは、時間（厳密にはアーティストがその作品を形にするために費やした時間）の機械的構造物として解釈されています。作品制作に費やされた時間を記録する画面をオブジェクトの足元に置くことで、Aymeric DeMeutis はデジタルアーティストとして自身の作品を形而上学的に解説しています。3D アーティストは時間の奴隷であり、数え切れないほどの時間を作品制作に費やしています。彼らの時間と労力は、構造物そのものを動かす、どこからともなくやってくる無限のエネルギー源である電気部品として表現されています。

自然光が入らない地下(暗いスタジオ)に設置された「Life of Zed」は、デジタルアーティストたちの毎日の生活と創作プロセスのメタファーです。また、この作品は人工知能プログラム「Dall-E」からインスピレーションを得ており、ノートパソコン上に同プログラムを展示しています。本シリーズの全体的なデザインに影響を与えたこの選択は、現代美術における AI の関連性を強調しており、人工知能と人間の知能のシナジーを探求しています。

002: The Conversion of x, y, and z

エネルギーを新しいものに変換する、スチームパンクと機械的な要素を持つデジタル彫刻である「The conversion of x, y, and z」は、トランスフォーメーションのプロセスを表現しています。改造された RB26 エンジンが原動力となり、エネルギーが構造物の動力となる粒子の基本要素に変換されます。それぞれが激しく揺れ動くことで、無限に自動化されたイメージが表現されます。自然界の要素が機械部品に置き換えられ、スタティックで自然的な彫刻が徐々に力強い機械へと変形する様をメタモルフォシスに表現しています。

このシリーズの第 2 幕を見れば、**Aymeric DeMeautis** が作品のどんな微細な要素にもこだわりを持っていることが分かります。変換されるすべてのオブジェクトが、デジタルクリエイションにおけるフェーズを表すメタファーとして正確に表現されています。粒子はエネルギーチャンバーにより大きい力へと変換されますが、これは現実世界で実際に作品を描画するコンピュータに機械的にたとえられています。空間を貫く動的な光線と、背景にある静的な光線も、時間についてのメタファーの一つです。アーティストが作品制作に没頭しているとき、時間は静止すると同時に早く進むこともできるのです。

また、コアを破壊することなく振動させるブレーキディスクによる突然の停止も重要なメタファーです。コンピュータがクラッシュし、アーティストが制作を行うために必要な機能がしばらくの間妨害されることはあっても、制作プロセスが不可逆的に止まることは決してありません。アーティストは中断されたまさにその瞬間から、トランスフォーメーションを再開させることができるのです。

003: The Birth of III

発展の最終形態は、機械的に開花する花で表現されています。シリーズの最後の作品である 3 作目は、最も詩的で示唆に富んだものとなっています。この作品は、インスピレーションが降りてくる瞬間の思いがけない達成感を誕生とジェネラティビティを想起させる自然な形のオブジェクトで表現しており、このオブジェクトはエネルギー、光、そして生命力を吸収します。

「**Birth of III**」は、前作よりも優雅で、象形的にもシンプルな構造を持っています。この漸進的なシンプル化は、必然的な試行錯誤を経て進められる創作のプロセスを表しています。観客は、成長する花、つまり 3D モデリング、アニメーション化、および合成が完了した後の、最終的なアート作品の創造物に目を向ける傾向があります。しかし、**Aymeric DeMeautis** は、作品を生み出す根本的なワークフローを示そうとしています。観客には見えていなかったアングルが垣間見えるようにするために、バラバラに砕けた鏡の破片を展示し、見えない部分が見えるようにしているのです。

「**Birth of III**」はアート制作における概念的なプロセスに疑問を投げかけています。アーティストが創造するものは、花開いたインスピレーションの結果でもありますが、他者の作品からインスピレーションを引き出し、その見返りにインスピレーションを与えるものでもあるのです。彫刻のイースターエッグのような土台には、アーティストが人工知能と行ったインスピレーションに関する会話の記録がスクロールしています。どのようにしてアイデアが生まれるのか、また、アイデアを見つけるための最良のアプローチについての質問を投げかけています。